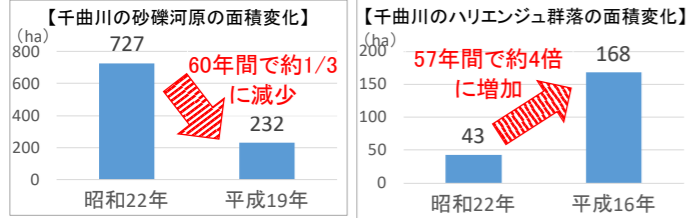


事業のあらまし

■事業の目的

千曲川はかつて砂礫河原（されきがわら）が広がり川らしい景観であるとともに、砂礫河原特有の動植物が多く生息する環境が育まれていましたが、近年は砂礫河原が減少し、ハリエンジュやアレチウリなどの外来植物が生い茂っています。



その結果、在来植物が減少し、景観が損なわれ、河川敷の利用も困難な状況になっています。

自然再生事業は、『これまでに失われた千曲川の自然環境を取り戻し、生物に適した生息・生育環境の保全』を目的に実施します。

■事業概要

洪水により砂礫河原はある程度再生されますが完全には元に戻りませんので、河川敷等の掘削・外来植物の伐採を行います。

事業の範囲



事業による効果

【効果①】砂礫河原の再生、川ならではの景観向上

河川敷の掘削や外来植物（ハリエンジュ、アレチウリ）の伐採により、砂と石からなる砂礫河原が再生されます。砂礫河原は緑が少なく環境が損なわれたかのように見えますが、これが千曲川本来の姿です。



現在、整備と洪水の影響で環境が改善されつつありますが、維持・改善するためには引き続き整備が必要です。



【効果②】動植物の生育環境の復元

外来植物が減少し砂礫河原が再生されることで、もともと千曲川に生育する砂礫河原ならではのカワラヨモギ等の植物（在来植物）が繁殖します。



砂礫河原に巣をつくるコチドリやイカルチドリなどの鳥類も戻ってきます。



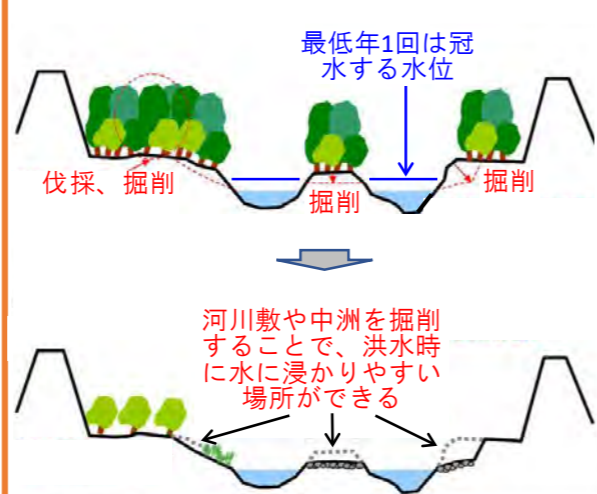
【効果③】河川敷の水辺空間の創出

再生された砂礫河原は人が立ち入ることができ、子どもたちの自然学習の場にもなります。



整備内容

【河川敷の掘削イメージ】



① 整備前 (平成25年3月)



【冠着橋（かむりきばし）上流の整備例】

② 整備直後 (平成27年7月)



③ 令和元年の洪水後 (令和元年11月)

